

ホームページ掲載用 一部抜粋版

令和5年度(2023年度)

教育計画

—研究課程—

北海道立農業大学校

Hokkaido

College

of

Agriculture

目 次

1 年間行事予定	1	(掲載省略)
2 履修科目一覧	3	
3 研究課程シラバス	6	
(1) 共通教養科目 (必修科目)	8	
(2) 共通教養科目 (選択科目)	19	
(3) 共通専門科目 (必修科目)	22	
4 時間割表	26	(掲載省略)

2 研究課程履修科目一覧

(1)25 期生(令和5年・2023年度入校生)〈1学年〉

(数字は履修年次と単位数)

科目名	実施時期	1年	2年
共通必修科目			
研究課題計画演習Ⅰ	1期	3	
総合実習Ⅰ	1期	15	
農業機械組織利用演習	2期	1	
財務管理	2期(3期集中)	3	
長期計画演習	2期(3期集中)	3	
専門研究	2期(3期集中)	3	
農業経済	2期(4期)	1	
農業経営	2期(4期)	1	
農業経営者実践論	2期(4期)	1	
農業統計	2期(4期)	1	
農業技術概論	2期	1	
農業支援組織論	2期(4期)	2	
6次産業化実践実習	1～4期	2	
6次産業化実践論	1～4期	4	
総合実習Ⅱ ※1	3期(2期集中)		15 (13※1)
研究課題計画演習Ⅱ	3期		2
農協・農業団体論	4期		1
農業法人化論	4期		1
農業税務基礎	4期		1
農業政策	4期		1
環境保全演習	2～4期	1	
卒業論文	4期		9
先進農業特別実習	4期		1
共通選択科目			
作物栽培基礎	1期	1	
土壌肥料学	1～2期	1	
労働衛生・労働管理	2期	1	
特別講座	4期(2期)		2
ITビジネス論	4期		1

科目名	実施時期	1年	2年
専攻必修科目			
(畜産専攻)			
家畜飼養特論	1～2期	2	
畜産経営学	2～4期		2
(畑園専攻)			
作物栽培特論	1～2期	2	
農産経営学	2～4期		2
アグリサポートコース必修科目			
アグリサポート演習Ⅰ	1～2期	1	
アグリサポート演習Ⅱ	2～4期		2
新規参入基礎講座	1～4期		1

学習形態	1単位当たりの時間数
講義	15時間
演習・実験	30時間
実習・実技	45時間

	実施単位数	修得すべき最低単位数		
		畜産	畑園	アグリ
共通必修科目	73 (71※1)	73	73	71
共通選択科目	6	3	3	2
畜産必修科目	4	4		4※2
畑園必修科目	4		4	4※2
アグリサポートコース必修科目	4			4
合計	83(畜)	80	80	81
	83(畑)			
	85(ア)			

- ・ ()内の実施時期にも履修可能
- ・ ※1 総合実習Ⅱ : アグリサポートコースは13単位
- ・ ※2 アグリサポートコースは畜産または畑園科目のどちらか一方の必修科目も修得するものとする

(2)24期生(令和4年・2022年度入校生)〈2学年〉

(数字は履修年次と単位数)

科目名	実施時期	1年	2年
共通必修科目			
研究課題計画演習Ⅰ	1期	3	
総合実習Ⅰ	1期	15	
農業機械組織利用演習	2期	1	
財務管理	2期(3期集中)	3	
長期計画演習	2期(3期集中)	3	
専門研究	2期(3期集中)	3	
農業経済	2期(4期)	1	
農業経営	2期(4期)	1	
農業経営者実践論	2期(4期)	1	
農業統計	2期(4期)	1	
農業技術概論	2期	1	
農業支援組織論	2期(4期)	2	
6次産業化実践実習	1～4期	2	
6次産業化実践論	2～4期	4	
総合実習Ⅱ ※1	3期(2期集中)		15 (13※1)
研究課題計画演習Ⅱ	3期		2
農協・農業団体論	4期		1
農業法人化論	4期		1
農業税務基礎	4期		1
農業政策	4期		1
環境保全演習	4期		1
卒業論文	4期		9
先進農業特別実習	4期		1
共通選択科目			
作物栽培基礎	1期	1	
土壌肥料学	1～2期	1	
労働衛生・労働管理	2・4期	2	
特別講座	4期(2期)		2

科目名	実施時期	1年	2年
専攻必修科目			
(畜産専攻)			
家畜飼養特論	1～2期	2	
畜産経営学	2～4期		2
(畑園専攻)			
作物栽培特論	1～2期	2	
農産経営学	2～4期		2
アグリサポートコース必修科目			
アグリサポート演習Ⅰ	1～2期	1	
アグリサポート演習Ⅱ	2～4期		2
新規参入基礎講座	1～4期		1

学習形態	1単位当たりの時間数
講義	15時間
演習・実験	30時間
実習・実技	45時間

	実施単位数	修得すべき最低単位数		
		畜産	畑園	アグリ
共通必修科目	73 (71※1)	73	73	71
共通選択科目	6	3	3	2
畜産必修科目	4	4		4※2
畑園必修科目	4		4	4※2
アグリサポートコース必修科目	4			4
合計	83(畜)	80	80	81
	83(畑)			
	85(ア)			

- ・ ()内の実施時期にも履修可能
- ・ ※1 総合実習Ⅱ : アグリサポートコースは13単位
- ・ ※2 アグリサポートコースは畜産または畑園科目のどちらか一方の必修科目も修得するものとする

(3) 科目の略称 24・25期生

科目名	略称
(共通必修科目)	
研究課題計画演習Ⅰ	研究計画Ⅰ
総合実習Ⅰ	総合実習Ⅰ
財務管理	財務管理
長期計画演習	長期計画
専門研究	専門研究
農業経済	経済
農業経営	経営
農業経営者実践論	実践論
農業統計	統計
農業支援組織論	支援組織
6次産業化実践実習	6次実践
6次産業化実践論	6次化論
総合実習Ⅱ	総合実習Ⅱ
研究課題計画演習Ⅱ	研究計画Ⅱ
農協・農業団体論	農協論
農業法人化論	法人論
農業税務基礎	税務
農業政策	政策
環境保全演習	環境保全
卒業論文	卒業論文
先進農業特別実習	特別実習
農業技術概論	技術概論
農業機械組織利用演習	機械組織
(共通選択科目)	
労働衛生・労働管理	労働
作物栽培基礎	栽培基礎
土壌肥料学	土壌肥料
特別講座	特別講座
ITビジネス論	IT論

科目名	略称
(専攻必修科目)	
(畜産専攻)	
家畜飼養特論	家畜特論
畜産経営学	畜産経営
(畑園専攻)	
作物栽培特論	作物特論
農産経営学	農産経営
(新規参入・雇用就農者専攻)	
アグリサポート演習Ⅰ	アグリⅠ
アグリサポート演習Ⅱ	アグリⅡ
新規参入基礎講座	新規基礎

3 シラバス

令和5年度 北海道立農業大学校

シラバスとは・・・

シラバス (Syllabus) とは、講師が学生に示す講義・授業の授業計画のこと。個別講義の受講に関して必要な情報をすべて盛り込んだメモのこと。

シラバスを作成する利点は、

- ①学習の流れを学生が理解し、円滑に授業を受けられる
- ②指導者にとっても、学生に対して円滑に指導を進められる

シラバスの活用方法

シラバスには、講義の授業の実施時期、担当講師、内容、学習目標、評価方法などが示されています。学生の皆さんが一年間どのようなことを学び、どういうことができるようになるかを示した資料です。

各講義の最初の時間に、担当の先生から説明があります。講義の際には忘れずに持参して下さい。また、予習や復習等に活用し、効率的な学習を進めてください。

(学生便覧より抜粋)

- 学習形態と単位、時間数

学習形態	1単位当たりの単位時間数
講義	15時間
演習、実験	30時間
実習、実技	45時間

- 学期の区分と授業

養成課程		研究課程	
第1学期	4～7月	第1期(3期)	4～9月
第2学期	8～12月	第2期(4期)	10～3月
第3学期	1～3月		

研究課程シラバス

(1) 共通科目 (必修)

- ・ 研究課題計画演習 I
- ・ 総合実習 I
- ・ 農業機械組織利用演習
- ・ 財務管理
- ・ 長期計画演習
- ・ 専門研究
- ・ 農業経済
- ・ 農業経営
- ・ 農業経営者実践論
- ・ 農業統計
- ・ 農業技術概論
- ・ 農業支援組織論
- ・ 6次産業化実践実習
- ・ 6次産業化実践論
- ・ 総合実習 II
- ・ 研究課題計画演習 II
- ・ 農協・農業団体論
- ・ 農業法人化論
- ・ 農業税務基礎
- ・ 農業政策
- ・ 環境保全演習
- ・ 卒業論文
- ・ 先進農業特別実習

学期の区分

	4-9月	10-3月
1学年	1期	2期
2学年	3期	4期

科目名	研究課題計画演習 I		
教科担当者	今野弘、三宅、萩原、今村、及川、金原、馬淵、今野敏		
単位数	3	履修区分	必修 (共通)
学習形態	演習	時間数	90
学期	1期		
学習目標	2年間で研究する研究課題計画概要書を作成する。自己の課題解決に向けた内容を検討し、総合実習の計画を作成する。		
学習内容	1 研究計画概要書の作成 (2年間の研究テーマを計画) 2 総合実習 I の計画作成 3 総合実習計画発表会		40 40 10
	「長期総合実習」について 長期総合実習は総合実習 I に連続して2期に総合実習 II を履修することができる (H21.5.27 農業経営研究科長期総合実習要領)。2期に配置されている講義は3期に受講する。希望する学生は、研究計画概要書を審査し、認定を受けるものとする。		
教科書	なし		
評価方法	発表会の発表内容、学習態度、計画書の提出		

科目名	総合実習 I		
教科担当者	今野弘、三宅、萩原、今村、及川、金原、馬淵、今野敏		
単位数	15	履修区分	必修(共通)
学習形態	実習	時間数	675
学期	1期		
学習目標	研究テーマに沿った実習・研修先(農業者、各試験研究機関、民間企業等)へ派遣し、実際の体験の中から、生産技術、経営管理を習得し、課題を解決する。		
学習内容	1 経営管理技術の習得 2 生産技術の習得 3 地域社会への対応性の向上 4 労働管理技術の習得 5 課題解決手法の習得 6 調査手法の習得 「長期総合実習」について 研究課題計画演習 I 学習内容参照	675	
教科書	なし		
評価方法	取組状況、実習日誌等による総合評価		

科目名	農業機械組織利用演習		
教科担当者	今野弘、三宅、馬淵、今野敏		
単位数	1	履修区分	必修(共通)
学習形態	演習	時間数	30
学期	2期		
学習目標	農業機械の作業体系や利用状況の現状把握及びシミュレーションを通じて、土地利用型農業における機械作業体系の改善や、機械導入計画の作成手法について学ぶ。		
学習内容	農業機械利用の研修(プランニング)を受講する。 1 自家における農業機械の稼働状況を「見える化」 2 機械作業の課題洗い出し 3 効率的な機械作業に向けたプランニングの作成 4 効率的な機械作業に向けたプランニングの発表	9 13 4 4	
教科書	プリント配布、農業機械導入計画策定の手引き		
評価方法	出席、学習態度、発表内容		

科目名	専門研究		
教科担当者	今野弘、三宅、萩原、今村、及川、金原、馬淵、今野敏		
単位数	3	履修区分	必修(共通)
学習形態	演習	時間数	90
学期	2期(3期集中可)		
学習目標	実践実習(総合実習Ⅰ)の課題に応じた情報収集、整理・分析を行い、報告書をまとめる。		
学習内容	1 プロジェクト法について 2 分析方法 3 中間検討 4 実習課題の整理・分析・報告書の取りまとめ 5 総合実習報告会 留意事項： 長期総合実習を選択した場合、3期中に集中講義で履修可能		10 10 10 40 20
教科書	プリント配布		
評価方法	報告書提出、報告会での発表状況		

科目名	農業経済		
教科担当者	三宅、【外来講師】		
単位数	1	履修区分	必修(共通)
学習形態	講義	時間数	15
学期	2期(4期可)		
学習目標	経済学の理論や農業を取り巻く諸問題について、具体的な実態を踏まえて、農業経済学の基礎的な課題について理解する。		
学習内容	1 農業経済学とは 2 農業政策と経営戦略(SWOT分析) 3 国際化の中での環境政策 4 農業経済団体について 5 経済性の分析方法について		3 3 3 3 3
教科書	プリント配布		
評価方法	レポート提出、学習状況、出席		

科目名	農業経営		
教科担当者	今村、【外来講師・農業者】		
単位数	1	履修区分	必修（共通）
学習形態	講義	時間数	15
学期	2期（4期可）		
学習目標	農業経営に必要な知識を習得し、自家の経営理念、戦略を検討する。		
学習内容	1 農業経営とは 2 農業経営を取り巻く環境 3 金融機関が行う農業支援 4 経営理念の形成・経営目標 5 経営戦略の立案	 	3 3 3 3 3
教科書	プリント配布		
評価方法	レポート提出、学習状況、出席		

科目名	農業経営者実践論		
教科担当者	今村、【外来講師・農業者】		
単位数	1	履修区分	必修（共通）
学習形態	講義	時間数	15
学期	2期（4期可）		
学習目標	短期および中・長期の営農計画について 地域の先進的農業者を外部講師として招聘し、実践事例をもとに農業経営のあり方を検討する。		
学習内容	1 経営計画の目的と内容 2 経営計画の作成手法 3 計画的営農の実践事例	 	5 5 5
教科書	プリント配布		
評価方法	レポート提出、学習状況、出席		

科目名	農業統計		
教科担当者	今村、今野弘、三宅		
単位数	1	履修区分	必修(共通)
学習形態	講義	時間数	15
学期	2期(4期可)		
学習目標	経営・技術情報の分析活用に必要な応用的な統計学の手法を習得し、経営分析を行える能力を養う。		
学習内容	1 農業統計とは 2 基本統計量 3 相関分析、回帰分析 4 検定、分散分析	 	3 4 4 4
教科書	プリント配布		
評価方法	レポート提出、出席		

科目名	農業技術概論		
教科担当者	萩原、三宅、今野弘、早川		
単位数	1	履修区分	必修(共通)
学習形態	講義	時間数	15
学期	2期		
学習目標	農業の専門分野について基本的な知識を習得する。日本農業技術検定2級の合格を目指す。		
学習内容	1 日本農業技術検定の傾向と対策 2 頻出箇所や重要項目の確認 3 過去問の反復学習と解説 4 模擬テスト	 	1 3 9 2
教科書	プリント配布、農業技術検定過去問題集		
評価方法	日本農業技術検定試験、学習状況、出席		

科目名	農業支援組織論		
教科担当者	三宅、【外来講師】		
単位数	2	履修区分	必修(共通)
学習形態	講義	時間数	30
学期	2期(4期可)		
学習目標	農業従事者の高齢化や担い手不足が深刻化する中で、経営体の労力負担軽減や、機械・施設投資の抑制に貢献する農作業の請負組織(コントラクター)について理解する。また、先進的農業者を外部講師として招聘し、コントラクターの現状と課題、就農後の運用について考察する。		
学習内容	道内数カ所の現地を選び視察と講義を受ける。 1 北海道と先進地の現状と問題点 2 コントラクターの経営者からの事例研究 3 利用者からの事例研究 4 コントラクターを自家経営に取り入れる際の問題点		9 7 7 7
教科書	プリント配布		
評価方法	レポート提出、学習状況、出席		

科目名	6次産業化実践実習		
教科担当者	今野弘、萩原、三宅、今村、及川、金原、馬淵、今野敏 【外来講師】		
単位数	2	履修区分	必修(共通)
学習形態	実習	時間数	90
学期	1～4期		
学習目標	農畜産物の付加価値を高め、農業経営の更なる向上のために加工の基礎技術を習得するとともに、食品HACCPに基づく衛生管理について実践する。また、実習で生産された加工品を、イベント等で販売することで、販売実務、販売戦略、接客態度などの基礎知識を習得する。		
学習内容	1 食品HACCPに基づく衛生管理について 2 農畜産物加工品の製造 (1) 乳製品加工:チーズ・アイスクリーム等の加工技術の習得 (2) 肉製品加工:ソーセージ等の加工技術の習得 (3) 農産加工:パン・ジャム等の加工技術の習得 3 農畜産物加工品の販売 農大祭、農大市、即売会、イベント等の販売実務の習得		3 5 5 3 2
教科書	プリント配布		
評価方法	学習状況、出席		

科目名	6次産業化実践論		
教科担当者	今野弘、萩原、早川、三宅、【外来講師・農業者】		
単位数	4	履修区分	必修(共通)
学習形態	講義	時間数	60
学期	1～4期		
学習目標	6次産業化の意義と目的を理解し、農畜産物をアグリビジネスに生かすためのマーケティング手法を習得するとともに、商品開発を通して自家の経営理念・営農方針策定の重要性を認識し、経営戦略に反映させる能力を養う。また、道内の先進的農業者等を外部講師として招聘し、実践事例について考察する。		
学習内容	1 北海道内における農畜産物の流通構造 2 農畜産物の加工流通・販売についての現状 3 価格対応とサービスについて 4 マーケティングにおける販売促進手法の習得 5 6次産業化へ向けた事業内容の習得 6 既存の加工販売物を活用した売れる物作りの企画・立案・実践作業 7 売れるパッケージ作成の習得 8 販路開拓手法の習得 9 食品 HACCP 等に基づく衛生的な製造工程管理	 	4 4 4 4 4 27 4 4 5
教科書	プリント配布、「激訳・経営指針成文化」(クナウこぞう文庫)		
評価方法	レポート提出、学習状況、出席		

科目名	総合実習Ⅱ		
教科担当者	萩原、今野弘、三宅、今村、及川、金原、馬淵、今野敏		
単位数	15	履修区分	必修(共通)
学習形態	実習	時間数	675
学期	3期(2期集中可)		
学習目標	卒業論文の課題解決のための計画を作成し、実践することにより、課題解決に必要な技術と手法を習得する。		
学習内容	1 課題解決手法の修得 2 生産技術の習得 3 経営管理技術の習得 「長期総合実習」について 研究課題計画演習Ⅰ学習内容参照	 	675
教科書	なし		
評価方法	取組状況、実習日誌等による総合評価		

科目名	研究課題計画演習Ⅱ		
教科担当者	萩原、今野弘、三宅、今村、及川、金原、馬淵、今野敏		
単位数	2	履修区分	必修(共通)
学習形態	演習	時間数	60
学期	3期		
学習目標	総合実習Ⅱにおいて、自己の課題解決に向けた内容を検討し期間中の実習計画を作成する。		
学習内容	1 研究計画概要書の見直し(2年間の研究テーマを計画) 2 総合実習Ⅱ(3期の実習)の計画作成 3 総合実習計画発表会		30 20 10
教科書	なし		
評価方法	発表会の発表状況、学習状況、計画書の提出		

科目名	農協・農業団体論		
教科担当者	今野弘、三宅、【外来講師】		
単位数	1	履修区分	必修(共通)
学習形態	講義	時間数	15
学期	4期		
学習目標	農業協同組合など主要な農業団体の仕組みと役割について理解し、農業経営に活用する能力を身につける。		
学習内容	1 農業協同組合(協同組合とは、農協の組織と事業、現状と課題) 2 農業委員会と農協の視察		8 7
教科書	プリント配布		
評価方法	学習状況、レポート提出、出席		

科目名	農業法人化論		
教科担当者	三宅、【外来講師・農業者】		
単位数	1	履修区分	必修（共通）
学習形態	講義	時間数	15
学期	4期		
学習目標	法人化の意義や農業法人の特徴を学び、就農後の経営方針について考察する。また、専門家や先進的農業者を外部講師として招聘し、法人設立に伴う手続きや効果について実践事例を交えて理解する。		
学習内容	1 農業経営の法人化とその意義 2 農業法人の形態と特徴 3 農業法人の設立手続 4 農地（権利移動、転用等）について 5 資産譲渡・労務管理の実際		2 2 3 3 5
教科書	プリント配布		
評価方法	筆記試験、学習状況、レポート提出、出席		

科目名	農業税務基礎		
教科担当者	萩原、【外来講師】		
単位数	1	履修区分	必修（共通）
学習形態	講義	時間数	15
学期	4期		
学習目標	農業経営者として必要な農業経営に関する税制を理解し、税務会計の基礎を習得する。		
学習内容	1 税のしくみ、青色申告 2 所得税法 3 消費税法 4 法人税法 5 相続税・贈与税法		2 4 3 3 3
教科書	プリント配布		
評価方法	レポート提出、学習状況、出席		

科目名	農業政策		
教科担当者	三宅、【外来講師】		
単位数	1	履修区分	必修（共通）
学習形態	講義	時間数	15
学期	4期		
学習目標	農業白書を元に営農に必要な政策、世界情勢等に関する理解を深め、経営者としての資質を身につける。		
学習内容	1 食料の安定供給の確保 2 強い農業の創造 3 地域資源を活かした農村の振興・活性化		5 5 5
教科書	プリント配布（農業白書）		
評価方法	学習状況・レポート提出、出席		

科目名	環境保全演習		
教科担当者	萩原、【外来講師】		
単位数	1	履修区分	必修（共通）
学習形態	演習	時間数	30
学期	2～4期		
学習目標	農業生産が周辺環境に与える負荷や、農業を取り巻く社会環境の現状について理解し、施肥や防除における自然環境に優しい農業生産技術や、周辺環境に影響を与えない畜産施設計画の知識を深める。また、他業種における環境対策の歴史と現状を認識することで、農業における環境対策の方向性を確認する。		
学習内容	1 北海道内における農畜産公害の現状 2 環境保全型農業の技術 3 他業種の環境保全対策について		8 14 8
教科書	プリント配布		
評価方法	レポート提出、学習状況、出席		

科目名	卒業論文		
教科担当者	萩原、今野弘、三宅、今村、及川、金原、馬淵、今野敏		
単位数	9	履修区分	必修(共通)
学習形態	演習	時間数	270
学期	4期(3~4期可)		
学習目標	各自のテーマを論文にまとめ、農業大学校で習得した知識、技術を総括し、総合的な経営能力を養成する。		
学習内容	1 データ収集 2 データ分析 3 課題・計画発表 4 論文執筆 5 卒業論文発表会 6 卒業論文提出		50 50 40 80 30 20
教科書	プリント配布		
評価方法	卒業論文提出(内容)、発表会の発表状況、学習状況		

科目名	先進農業特別実習		
教科担当者	萩原、三宅		
単位数	1	履修区分	必修(共通)
学習形態	実習	時間数	45
学期	4期		
学習目標	生産技術や経営管理について先進的な農家(関係機関を含む)で視察研修を企画・実践することにより、就農後の自発的な調査研究の意欲を醸成するとともに、その農家の経営手法について理解する。 また、農業関連機関(JA等)に実習に入り、農業を支援する関係機関の業務を見ることによって自家の経営を客観的に分析する能力を養う。		
学習内容	1 調査研究手法習得(視察・実習先選定、計画作成、依頼等) 2 先進農家の経営手法習得、農業関連機関での実習による知見の習得 (1) 生産技術 (2) 経営管理技術		18 27
教科書	なし		
評価方法	報告書作成及び報告会での発表状況		

(2) 共通科目 (選択)

- ・作物栽培基礎
- ・土壌肥料学
- ・労働衛生・労働管理
- ・特別講座
- ・ITビジネス論

科目名	作物栽培基礎		
教科担当者	萩原、今野弘		
単位数	1	履修区分	選択 (共通)
学習形態	講義	時間数	15
学期	1期		
学習目標	作物栽培の基本的な理論と技術を習得する。		
学習内容	1 度量衡換算出法 2 作物生理の基礎と生育調査方法 3 は種量・栽植密度の計算方法 4 肥料・農薬の基礎及び散布量の計算方法 5 プロジェクト手法と調査・記録方法		1 3 4 4 3
教科書	プリント配布		
評価方法	レポート提出、学習状況、出席		

科目名	土壌肥科学		
教科担当者	今野弘、萩原、三宅、金原		
単位数	1	履修区分	選択(共通)
学習形態	講義	時間数	15
学期	1～2期		
学習目標	土壌断面調査、土壌診断に基づく施肥設計をとおして、土壌の物理性、化学性、生物性の理解を深める。また、生産現場で必要な土壌物理性の改善、効率的施肥設計技術を習得する。		
学習内容	1 北海道の耕地土壌の特色と栽培対応 2 土壌断面調査方法 3 施肥設計の基礎 4 土壌分析数値に基づく施肥設計		3 4 4 4
教科書	プリント配布		
評価方法	レポート提出、学習状況、出席		

科目名	労働衛生・労働管理		
教科担当者	今村、【外来講師】		
単位数	1	履修区分	選択(共通)
学習形態	講義	時間数	15
学期	2期		
学習目標	農業従事者が、快適で安全な農作業を行うために必要な基礎知識を修得し、農業経営者としての意識を醸成する。		
学習内容	1 農業労働の実態とリスクアセスメント 2 労働負担の考え方とその対策(人間工学の基礎知識) 3 雇用労働力と労働管理 4 労働者に多い疾病とその対策		3 4 4 4
教科書	プリント配布		
評価方法	レポート提出、学習状況、出席		

科目名	特別講座		
教科担当者	今野弘、【外来講師】		
単位数	2	履修区分	選択（共通）
学習形態	講義	時間数	30
学期	4期（2期可）		
学習目標	農業分野だけに限らず、異業種の取組や経営者の考えを直接聞くことで経営に対する意識や社会人としての資質を学び、農業経営者として必要な広い視野と教養を身につける。		
学習内容	1 各種講演会、講習会、学会、イベント等への参加 2 特徴的な企業の視察や経営者の講話 3 自分の得た知見を他の学生と共有し行うグループワーク 4 レポートの作成	10 10 5 5	
教科書	なし		
評価方法	参加報告書の提出と内容、グループワークでの発言内容、総括レポートの提出と内容		

科目名	IT ビジネス論		
教科担当者	今村、【外来講師】		
単位数	1	履修区分	選択（共通）
学習形態	講義	時間数	15
学期	4期		
学習目標	農業及び流通分野の IT 化（情報技術）が進む中、特に AI（人工知能）導入による生産効率の向上、農作業の省力化、生産工程の低コスト化が期待されている。そこで、農業分野で導入が進みつつある IT 化について理解を深め、現状と今後の課題を整理し、IT 導入に向けたビジネスモデル事例について学ぶ。		
学習内容	1 農業及び流通分野の IT 化の現状 2 農業分野の AI について ・ AI の基礎と活用事例 ・ ほ場や植物、生産物の画像データをもとに画像解析事例 3 IT 分野のビジネスモデル事例 ・ 農業の IT 導入に伴うビジネスモデル ・ AI 導入に伴うビジネスモデル ・ IT 化が進むフードチェーン	3 8 4	
教科書	プリント配布		
評価方法	レポート提出、学習状況、出席		

(3) 専門科目 (必修)

畜産必修科目

- ・家畜飼養特論
- ・畜産経営学

畑園必修科目

- ・作物栽培特論
- ・農業経営学

アグリサポートコース必修科目

- ・アグリサポート演習Ⅰ
- ・アグリサポート演習Ⅱ
- ・新規参入基礎講座

科 目 名	家畜飼養特論		
教 科 担 当 者	三宅、今村		
単 位 数	2	履 修 区 分	必修 (畜産)
学 習 形 態	講義	時 間 数	30
学 期	1～2期		
学 習 目 標	栄養素の特徴と家畜の栄養生理を学び、効率的な飼料給与と飼養管理技術を習得し、生産効率の向上を図り、農業経営に活用する能力を身につける。		
学 習 内 容	1 育成期の飼養管理 2 泌乳期及び乾乳期の飼養管理技術 3 家畜衛生(家畜防疫、農場 HACCP) 4 草地管理技術 5 牛舎施設及び安楽性のための技術 6 生産性向上(乳質改善等)のための技術 7 肉牛管理技術 8 現場における最新技術 9 自己課題とする技術の検討		3 3 3 3 3 3 3 3 6
教 科 書	プリント配布		
評 価 方 法	レポート提出、学習状況、出席		

科目名	畜産経営学		
教科担当者	三宅、今村【外来講師】		
単位数	2	履修区分	必修(畜産)
学習形態	講義	時間数	30
学期	2期～4期		
学習目標	畜産経営の各部門に関する最新技術や政策についての知見を深めるとともに、自己の課題解決のための理論を習得する。		
学習内容	1 畜産経営に関する政策、国際化への対応 2 畜産経営の大規模化、多角化 3 畜産における地域支援システム 4 ICT、自動化等の情報	 	7 7 8 8
教科書	プリント配布		
評価方法	レポート提出、学習状況、出席		

科目名	作物栽培特論		
教科担当者	今野弘、萩原、及川、金原、馬淵、今野敏、【外来講師】		
単位数	2	履修区分	必修(畑園)
学習形態	講義	時間数	30
学期	1～2期		
学習目標	水稲・畑作物及び野菜・花きの栽培に関する最新技術について習得する。		
学習内容	1 水稲 2 露地野菜 3 施設野菜 4 畑作物 5 花き 6 先進農家の視察と最新技術の調査	 	5 5 5 5 5 5
教科書	プリント配布		
評価方法	レポート提出、学習状況、出席		

科目名	農産経営学		
教科担当者	萩原、今野弘		
単位数	2	履修区分	必修(畑園)
学習形態	講義	時間数	30
学期	2期～4期		
学習目標	農業経営に関する実践理論を習得するとともに最新技術や経営についての知見を深める。		
学習内容	1 農業の先端技術について 2 農地基盤整備と農村環境改善 3 産地育成・組織育成		10 10 10
教科書	プリント配布		
評価方法	レポート提出、学習状況、出席		

科目名	アグリサポート演習Ⅰ		
教科担当者	萩原、今野弘、三宅、今村、【外来講師】		
単位数	1	履修区分	アグリサポートコース必修
学習形態	演習	時間数	30
実施学年・学期	1～2期		
成績審査	実施しない		
学習目標	雇用就農、農業関連産業等への就職に向けた情報収集と整理		
学習内容	1 オリエンテーション 2 農大生の進路・就職先について 3 キャリアデザインとは 4 農業生産法人への就職について 5 農業関連産業への就職について 6 官公庁・試験研究機関への就職について 7 インターンシップのすすめ 8 卒業生の講話		30
教科書	プリント配布		
評価方法	レポート提出、学習状況		

科目名	アグリサポート演習Ⅱ		
教科担当者	萩原、今野弘、三宅、今村、【外来講師】		
単位数	2	履修区分	アグリサポートコース必修
学習形態	演習	時間数	60
実施学年・学期	2～4期		
成績審査	実施しない		
学習目標	雇用就農、農業関連産業等への就職に向けた個別演習		
学習内容	1 オリエンテーション 2 進路別特別演習（キャリア実現に向けた計画作成） 3 進路別特別演習（自己分析） 4 進路別特別演習（応募書類の作成方法） 5 進路別特別演習（ビジネスマナー） 6 進路別特別演習（筆記試験指導） 7 進路別特別演習（面接試験指導） 8 演習のまとめ・発表		60
教科書	プリント配布		
評価方法	レポート提出、学習状況		

科目名	新規参入基礎講座		
教科担当者	萩原、及川、金原		
単位数	1	履修区分	アグリサポートコース必修
学習形態	講義	時間数	15
学期	1～4期		
学習目標	新規参入に関する北海道の現状を知り、参入に関する農業政策、地域の状況や農村生活について認識を深め、就農に必要な基本的な仕組みを理解する。		
学習内容	1 北海道の就農(新規参入)に関する情勢 2 新規参入における行政施策及び地域サポート体制 3 農村を知り、道内各自治体の状況を知る 留意事項： 新規参入を考えている学生は極力受講すること		5 5 5
教科書	プリント配布		
評価方法	レポート提出、出席		